

つどい

広島県偕行会30年度総会

平成30年度の広島県偕行会総会は、平成30年10月28日（日）、11時～14時に行われました。会費は、5千円（年会費千円を含む）でした。初めに護国神社に集まり、参拝（全員玉串を奉りて拝礼）の後、マイクロバスにて市内千田町の料亭「久里川」内の一室に移動しました。

参集者は、総勢12名（旧軍5名、陸自7名）でした。旧軍は、深澤嘉一会長（陸士61）、緒方昭三相談役（陸士61）、横崎元男（同）、と私、高崎禎夫副会長（広幼48）の4名に加えて、新しく、野坂辰夫（陸士59）長老先輩が、赤いカープの帽子をかぶって、元気にお出くださいました。陸自は、綿貫昌芳副会長（陸自66）、木舩久幸事務局長（陸自68）、田所恒之輔（陸自69）、安永公四郎（陸自92）、山崎満（陸自98）のほか新たに、宮本正（陸自71）、嶋田正志（陸自95）を加えた

7名が出席され、また、嶋田正志（陸自95）さんは、新しく「事務局次長」として、木船久幸現事務局長を鋭意補佐することになりました。

写真は、古い、由緒ある「広島偕行会」の旗と並んで整列した、この日の参集者の全員です。

総会は、木船事務局長の司会によって、国歌斉唱、英霊・物故会員2名への黙禱に続き、会長挨拶及び全国偕行会会長会議・総会（10月11・12日、東京）の報告、役員紹介、ついで、綿貫副会長・木船事務局長による会務・会計報告が行われました。

会務報告では、旧軍38名・元自31名の現勢から、当面、元自50名を目標に入会を促進すること、また、慰霊活動として、広島護国神社の春秋季例大祭、終戦日の戦没者追悼式（4月10日、10月21日、8月15日）のいづれにも、役員が出席したこと、さらに、深澤会長と奥田虎昭（陸自70）が「庄原の陸軍病院死没者（約2百名）の碑」への参拝を実施し、その氏名の調査や靖國神社への合祀確認を偕行社本部に依頼中であること、などが話されました。なお、毎年4月の「広島比治山陸軍墓地合同追悼式」（奉賛会長＝元外務大臣・岸田文雄）は、建物の建て替えのため、本年度は不実施でした。

懇親会では、全参集者がこもも立つて、マイク片手に、制限時間いっぱい、

思いのたけを語ってくれました。予めの想定をはるかに上回る、斬新で愉快な自己紹介や、率直な各自の思いの開陳でした。会は、豊かな笑いの中に、一挙に親睦の度を深めました。

恒例の歌の競演は、「陸軍士官学校校歌」の1番8番と、「陸自幹部候補生学校校歌」の1番2番でした。

そして最後は、私による、会誌『偕行』購読の薦めと、『広島偕行社』は明治天皇の安在所だった（明治18年8月1～3日の3泊）「実史話」に続く、本会の弥栄を祈つての万歳三唱をもって、笑顔のうち、再会を期し散会しました。

（副会長 高崎禎夫 広幼48）

